

遠くて通所できない、と課題は山積みです。

●南相馬では

市内が避難をめぐって4つに区分され矛盾と困難を抱える南相馬市では、個人情報報壁を超え、行政から名簿をもらい、実態調査に取り組んでいます。64歳未満1139名にローラーをかけ、現在3回目の訪問中です。「1カ月ぶりに人と話した」という人も、孤立感を募らせていました。

受け皿の準備が課題とな



り、日中活動の場を再スタート。①もともと使っていた人②就労していたが切られた人③在宅だった人④他の地域から来た人、への対応です。職員の少ない中で利用者はいっ

ばい。職員の悲鳴が聞こえてきました。

●弁護士ネットから

宮城から福岡まで17名の弁護士が参加。東電の姿勢を厳

しく批判し、そのうえで、東電への請求の仕方などの説明がありました。仮払い金や義援金を収入とみなし生活保護を切る事態がひろがっていることを懸念し、3県の自治体

に調査中であるという報告もありました。「まずは誰かに相談してほしい」電話相談の窓口のチラシが配布されました。(全国事務局 新井田恵子)

アラウンド GOGO 55



ジャンベと沖縄

児玉正文

長男の真人(ダウン症・27

歳)は、非常勤の筑波大学の風呂掃除などをしながら、昨年からは彼自身の希望でグループホームでの一人暮らしをはじめました。余暇はヨサコイ、ロックなどと忙しい毎日を過ごしています。また、来年つくば市で開催される青年期集会の準備実行委員長としても活躍しています。

私たちは、子どもの成長に合わせて、障害児の学童保育、作業所などをつくってきました。そのために全障研に入り、勉強もしてきました。最近で

は、親亡き後のことなど気になることはたくさんあるのですが、なかなか実現できていないことも多いです。

最近の私は歳のせいかわ、力の衰えをかなり感じます。腰痛は若い頃からでしたが、今年の夏は肩や腕にも痛みが生じ、体を動かすことがつらくなり、自転車通勤もできず情けなくなっています。

一番末の高校生の娘が独り立ちするまで、賃金収入を得ながら働き続けることができるのだろうかと不安になることもあります。

私は気が多くて、いろいろな楽器やスポーツなど手を出しますが、どれも成就しないので次に移ってしまいます。仕事も就職してから職種はほぼ同じですが、やっている内容は変化しています。しかし、これも次々にこなしていくことがつらくなっています。

なぜか昨年から久しぶりに労働組合の役員に選ばれ地道な活動を行っています。こちらも、かつての様子とはだいぶ違い、イケイケといった感じではなく、社会情勢が厳し

いにもかかわらず、労働組合への期待が薄れている感じがしているので、原則的で魅力的な活動を模索しています。

こんな私でも、楽しんでい

こともあります。ひとつは、昨年から昼休みにジャンベをたたきはじめてことです。下手でもたたいていると気分もよくなります。もうひとつは、三男がいることを理由にして、年に数回、沖縄に遊びに行っています。遠く離れた島にいると解放された感じになり、気分も良いです。沖縄に行けば、三線を楽しみたいと思うのですが、どうせ帰ればやらないだろうと思ひ、ぐつとこらえ、はじめていません。

(全障研茨城支部)